

かまいし

教育講演会

「これからの岩手の教育について考える」

釜石市の学校教育の目標である「強く生き抜く力」の育成を図るため、市内全教職員を対象に6月21日（金）釜石市民ホールTEITOにて教育講演会が開催されました。

講師として釜石市立釜石東中学校の米慎司校長先生を迎え、「これからの岩手の教育について考える」と題し、国、県の動向を踏まえながら、分かり易く説明していただきました。

講演は、震災時の映像やお話から当時のことを振り返り、復興教育が目指すのは「未来の復興・発展を担う子どもたちの育成」であることを再確認することから始まりました。震災の頃

の記憶がない、また、震災後に生まれた子どもたちが今後増えていく中で、次の世代へ語り継いでいくことの大切さ、その課題についても考えることができました。

次に、新しい学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、子どもたちが自分自身で問題に向かい、進んで解決していこうとする「主体的な学び」とともに、

他者との学び合いを通して多様な見方や考え方に触れ、自身の思考を深めていくような「深い学び」のある授業を目指していくという本市の学校教育の目指す方向について確認しました。

また、そのための具体的な方策として、学習状況調査等の分析と活用の仕方が示されました。子どもたちが何につまずいているのか、そのつまずきを授業の中でどう解決していくかを事前に想定し、授業づくりに生かすこと、教員の「教えた」と子どもたちの「わかった」のギャップを埋める必要性がある

ことについて共有しました。教師が子どもたちの目線で自分自

【所感用紙から】
・特に勉強になったことは「つまずき」を大事に扱うということ。調査結果の分析や活用の仕方へのヒントをもらったことで、今後の取組についても考えることができる。子どもたちのためにできることを考え続けていきたい。
・原点である「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせることを忘れず、子どもたちと接することを再認識することができました。明日からの教育活動で意識していこうと思います。
・各調査の分析を日々の学習に活かすため、ねらいをもって授業づくりをしていきたいと思いました。どの段階でつまづいたのかを見極め、子どもたちに学力をつけていきたいと思いました。

身の授業を振り返り、子どもたちが「わかった」「できた」と学ぶ楽しさを実感できる授業を目指し、教師自身が学び続けていく姿勢をもつことの大切さを改めて感じさせられました。
そして、講演の最後には、子どもたちの「強く生き抜く力」を育むために、地域と学校が目標を共有し、連携・協働することが必要であることを確認しました。
市内全教職員が一同に会し、釜石市の教育について思いを一つにし、目指す方向性を共有することのできた有意義な講演会となりました。

共に学び、共に生き抜く社会へ
「インクルーシブ教育システム」の理解啓発に向けて

特別支援教育とは「障がいのある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持っている力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの」と定義されています。

現在、特別支援教育は、特別支援学校や特別支援教室だけで行われる教育ではなく、通常の教室に在籍する「困っている子」に対しても、必要な支援を行う教育であり、全ての学校・教室で行われているものです。

インクルーシブとは、障がいの有無で人を区別せず、一人一人の違い（ありのままのその人）を認め合いながら、同じ場所（地域）で育ち支え合う社会の実現を目指す、という意味で使われています。インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場と共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点



熱弁を奮う米校長先生

で教育的ニーズに最も的確に
 える指導を提供できる、多様
 柔軟な仕組みを整備すること
 必要とされます。小・中学校
 における通常の学級、通級に
 指導、特別支援学級、特別
 支援学校といった、連続性
 のある「多様な学びの場」
 が必要です。

教育委員会では、このよう
 な特別支援教育の体制を整
 えたいと考え、昨年度から
 国立特別支援教育総合研
 究所の指導を受け、研究を
 進めています。

今年度は、研究の重点の一
 つとして「校内研修の充実」
 を位置付け、研究協力校を
 釜石小学校、釜石中学校に
 指定し、「特別支援教育の視
 点による児童生徒理解の充
 実について」をテーマに、
 研修会を実施しています。

釜石小学校では9月2日
 (月)、9月12日(木)の計
 2回実施しており、釜石中
 学校では11月7日(木)に
 実施予定です。また、同様
 のテーマの研修を7月23
 日(火)に開催した「釜石
 市教育支援員研修会」でも
 実施しました。

よって、その困難さが改善
 するかもしれない、という
 見方や考え方」と定義し、
 困難が生じる状態を疑似体
 験し、それが日常的に継続
 することを想像すること(子
 どもの視点に立つこと)を
 通して、特別支援教育の視
 点から、児童生徒理解を捉
 え直すことをねらいとしま
 した。これにより、支援を
 必要だと理解していた子ど
 もについても、さらには支
 援の必要性と方向性が明
 確になり、今まで困難さを
 抱えていたことに気づけな
 かった子どもについて、気
 付き、校内の全教職員で
 支援を検討することにつ
 がります。

教育委員会では今年度の
 成果をもとに本研修をブラ
 ッシュアップし、来年度以
 降、市内の各学校にさら
 に広めていくことを計画し
 ています。

◀研修会 所感用紙より(抜粋)▶

- ・子どもの困り感をわかっている
 ようでわかっていない面があ
 ったことを実感した。
- ・「困っているかもしれない」と
 気付けるように注意していきたい。
- ・学級の児童一人一人に目を向
 け、再度支援の在り方を見直
 したい。
- ・困難さが何で、どう手を打て
 ばよいかを学ぶスタートとな
 った。

佐藤功さんが教育長に就任
 福成菜穂子さんが教育委員に就任

佐藤功教育長と教育委員を
 務めていた市川淳子さんが9
 月30日をもって任期満了と
 なり、釜石市議会9月臨時
 会において、議会の同意を
 得て、10月1日付けで市
 長が教育長に佐藤功さん、
 教育委員に福成菜穂子さん
 を任命しました。

また、10月1日付けで教
 育長が佐藤猛夫委員を教育
 長職務代理者に指名しま
 した。



< 福成 菜穂子委員 >



< 佐藤 功教育長 >

◆教育委員会の構成

- ◇教育長
 佐藤 功さん
 任期：令和元年10月1日
 ～令和4年9月30日
 (3期目)
- ◇委員(教育長職務代理者)
 佐藤 猛夫さん
 任期：平成29年10月1日
 ～令和3年9月30日
 (2期目)
- ◇委員
 太田 悦子さん
 任期：平成28年10月1日
 ～令和2年9月30日
 (1期目)
- ◇委員
 鈴木 勝さん
 任期：平成30年10月1日
 ～令和4年9月30日
 (2期目)
- ◇委員
 福成 菜穂子さん
 任期：令和元年10月1日
 ～令和5年9月30日
 (1期目)

第1回釜石市総合教育会議
 が開催されました

8月29日(木)に令和元
 年度第1回釜石市総合教育
 会議が開催されました。

会議は、市長、教育長及
 び教育委員全員が出席し、
 今後の学校教育等について
 の意見交換等を行いました。

内容は、令和2年度の釜
 石市児童生徒就学援助制
 度改正についてと今年度
 実施した通学路緊急合同
 点検についてです。

学校教育課長及び学校教育
 課主幹が、具体的な説明
 をし、それを踏まえて市
 長と教育委員がそれぞれ
 質問や意見を述べ、協
 議を行いました。

総合教育会議は、原則
 公開することとしています。
 会議における協議事項
 等は、大綱の策定に関
 する協議、教育を行う
 ための諸条件の整備
 その他の地域の実情
 に応じた教育、学術
 及び文化の振興を図
 るための重点的に講
 ずべき施策についての
 協議等です。

開催日や傍聴について
 は、ホームページでお
 知らせしております。

かまいし絆会議 ～未来への第二歩～

各小・中学校の児童生徒で組織する「かまいし絆会議」未来への第一歩」は、今年度でスタートから3年目を迎えました。

《これまでの取り組み》

これまで、ラグビーワールドカップを、世界中に感謝の気持ちを伝えるための良い機会ととらえ、様々な活動に取り組んできました。

「モザイクアート」がありがとう員画」は、ホタテの貝殻約6000枚を全小・中学生で色塗りし、貼り合わせた巨大壁画です。完成した作品は、試合会場となる鶴住居スタジアムに設置され、6月9日(日)に完成除幕式が行われました。

「ありがとうの手紙 #Thank you From KAWAISHI」は、家族、友達、震災後に心を寄せてくれた人達、ラグビーワールドカップに力を尽くしている人達、みんなに向けて「ありがとう」の想いを伝える歌です。フレーズや言葉を各校から募集し歌詞にしました。2月に完成し、3月に録音が行われました。

《PRビデオ撮影》

撮影はまずは中学校5校から始まり、8月8日(木)・9日(金)の2日間の日程で行われました。

これまでの取り組みを受けて、試合観戦日までは、「ありがとうの手紙」の歌をバックにしたPRビデオの制作、開幕イベントや試合会場での歌の発表に向けた取り組みになりました。

《第1回本会議》

各校代表計28名が集まった第1回目の会議は、8月7日(水)に釜石東中学校で行われました。

話し合いでは、PRビデオの撮影に全小・中学校に参加してもらうことや撮影内容が確認されました。話し合いの後、各小学校の撮影で使用する『ありがとう』を描いた横断幕』を制作しました。言語は日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、台湾語、ロシア語、アラビア語、フィジー語の計9カ国語を使用することとし、各小学校に割り当てました。

会議の最後には、『試合会場で「ありがとうの手紙」の歌を小・中学生全員で歌いたい』という強い願いを改めて全員一致で確認しました。

中学生は、主に歌を歌う姿の撮影となりましたが、他にも虎舞やソーラン節、部活動の様子など、各校ならではの活動も撮影されました。また、撮影場所も学校はもちろん、唐丹漁港やコスモス公園、鶴住居駅など、その地域ならではの場所も映像に収めることができました。

小学校9校の撮影は、夏休み明けの8月27日(火)・28日(水)の2日間の日程で行われました。

小学生は、第1回本会議から制作を始め完成した『ありがとう』を描いた横断幕』を披露しながら、各校ならではの活動や郷土芸能、笑顔で手を振る姿を映像に収めました。また、撮影場所も校庭や校舎内、鶴住居スタジアムなど工夫して撮影されました。

完成したPRビデオは、すでにYouTubeで配信されており、再生回数1万回を超える反響を呼んでいます。感謝の気持ちを、少しずつ世界に伝えることができています。

PRビデオは
You Tubeで配信中です
<https://m.youtube.com/watch?v=Rz6nTvK0-DI>
※市HPからも
アクセス可能です

《開幕イベント参加》

ラグビーワールドカップがいよいよ開幕した9月20日(金)、かまいし絆会議のリーダーと有志77名は、釜石市民ホールTETOに設置された特設会場(ファンゾーン)で「ありがとうの手紙」を発表しました。

発表に先立ち、歌・PRビデオリーダーの小澤大地さん(釜石中3年)から挨拶があり、「釜石の未来はぼくたちがつくる」という力強いメッセージが話されました。

歌の発表では、どの児童生徒も各校で練習が行われてきた成果を代表して示そうと精一杯歌いました。途中、感動の涙を流してくださる市民の方もいらっしゃいました。

歌い終わった後は、会場から皆さんの拍手をいただき、参加した全員で達成感を味わうことができました。

《試合当日の歌の発表》

9月25日(水)、フィジー対ウルグアイの試合が、釜石鶴住居復興スタジアムで開催されました。市内小・中学校の生徒2011名は、この試合に招待されました。この試合で、全員で「ありがとうの手紙」を合唱することを目標に、各学校で練習に取り組んできました。

格式ある国際大会で、合唱を発表するという目標を実現するために、多くの方々が力を尽くしてくださいました。

結果、想いが通じ、アカペラと曲を流してもらったの合唱を2回歌うことができました。先輩方から想いをリレーしながら、世界に感謝を伝える取り組みが実を結んだ時間を過ごすことができました。

《これからの取り組み》

ラグビーワールドカップが終わっても、かまいし絆会議の取り組みは続きます。

これからのかまいしを担っていく人間に成長していけるよう、よりよい学校生活を過ごせる取り組みなどを考えていきたいと思います。

かまいしの未来は私たちがつくりまします！

令和元年度唐丹中学校職場体験学習 『文化財調査員の仕事』

令和元年10月3日(木)・4日(金)の2日間、唐丹中学校2年生の日野真之君が釜石市教育委員会文化財調査員の仕事を体験しました。

文化財調査員の仕事は文化財の調査・保護・活用です。今回、日野君には調査と活用について体験してもらいました。調査は現地調査と室内整理に分かれます。日野君が住む唐丹地区には、現在国の指定を目指す屋形遺跡が存在します。実際に現地を訪れて、地元の人への聞き取りや土器の散布状況などを確認しました。そして現地の状況を撮影し、記録として保存します。



採集した遺物を調べています

続いて、現地で採集した遺物を持ち帰って洗い、それらが何なのか調べます。日野君が見つけた遺物は約4000年前の縄文土器のかけら、石器の材料となった剥片、石斧のかけら等があります。これらの名称、材質、使い方を調べました。

最後に、調べた内容を一般の人に知ってもらうため展示を行いました。現在、教育センターの入り口に日野君のまとめた成果が展示してありますので、ご来訪時に御見学ください。

日野君は化石や遺跡などの古物が好きでこの職場体験を志望したとの事です。「文化財調査員の仕事を調べることは大変だけれども、仕事は楽しかった。」との感想とともに、今回訪れた屋形遺跡を国指定にするために頑張つてほしいとの激励をもらいました。

子どもたちが文化財を知り、考えてくれることが文化財保護の最も重要な鍵となります。今後釜石市内の子どもたちにも、文化財との触れ合いの場を増やしていきます。

令和元年度 屋形遺跡発掘調査



現地説明会の様子

屋形遺跡は唐丹町大石に所在する縄文遺跡です。その重要性から国指定史跡を目指して、継続した範囲内容確認調査を実施しています。

本年度は7月1日(月)から1ヶ月の間調査を行い、昨年度の調査と併せると、10棟以上の竪穴住居跡と土器が埋設された土坑が発見され、貝塚を築いた縄文人の集落の内容が少しずつ明らかになってきました。

この成果を知っていたくため、8月3日(土)に現地見学会を開催しました。唐丹町をはじめ、市内外から約30名の参加者が訪れ、調査成果の説明に聞き入っていました。

令和元年度甲子中学校鉄の学習

甲子中学校の1年生は、総合的な学習の中で、1年間を通して釜石と鉄の関わりを学んでいます。

令和元年8月27日(火)・9月2日(月)の2日間にわたり、甲子中学校の1年生39人が鉄づくり体験に挑みました。

本年度は鉄の歴史館や橋野鉄鉱山、日本製鉄釜石製鉄所の見学を通して「鉄のまち釜石」の歴史や技術に触れてきました。今回は釜石の鉄鉱石を原料に、たたら製法による鉄づくり体験を実施しました。

この体験では、班ごとに各リーダーを設定しています。築炉や操業方法はリーダーにのみ伝えており、すべての工程を生徒たちが主体となって行いました。鉄づくりの大変さと共に、リーダーシップの醸成とリーダーを支える大切さを同時に学ぶ体験となっています。

どの班も一丸となって取り組んだ結果、すべての炉で約4kgのケラ(鉄の塊)を取り出すことに成功しました。

今年度の鉄との関わりを学ぶ



ノ口出しの様子

学習も残りわずかとなりました。鉄の記念日に鉄の検定と鉄の学習発表会を実施いたします。甲子中学校と共に、釜石中学校総合文化部、釜石商工高等学校の学生も発表してくれまます。是非ご来場いただき、学習の成果をご覧いただきたく思います。

また、鉄の検定の一般参加も随時受け付けております。ぜひ一度釜石の御当地検定に参加してみてください。

鉄の学習発表会

日時：11月30日(土)

10時～12時

場所：イオンタウン釜石2階

イベントスペース